とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1489
施設名	天沼保育園
施設所在地	東京都杉並区天沼2-30-4
法人名	社会福祉法人国立保育会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

感覚

＜テーマの設定理由＞

2年前に新園として公立保育園からの引継ぎと併せて園舎の引越しを経験した。さまざまな経験やさまざまな個性の職員と共に、水遊びを主にいろいろな感覚遊びを楽しんでいる。そこで「感覚」をテーマとして設定する。
一言で感覚と言ってもさまざまな感覚がある。水遊びや砂、泥など触覚にまつわる遊びが主であるが、実験遊びでスライムづくりをして、その触覚はもちろん、色の加減や光の反射を発見し視覚からも楽しむ様子があった。乳児クラスでは手作りウォーターベッドや風船ベッドなどを用いて身体感覚を楽しんできた。また、普段の保育環境の中にも、トレインカースロープなどを使って視覚を使った遊びがある。気をかけている子どもたちもこういった感覚遊びを気に入り、感覚統合を取り入れた保育内容を設定すると、人への関心が深まったり、安定が図られ言葉が増えている様子も見られてきた。そういった経緯があり、園全体で話し合い、感覚遊びをテーマに設定し、子どもたちの興味関心がどのように展開されていくか、子どもの興味関心から保育者も学びを深めていけると良いなと考えたため、本テーマに設定した。

２．活動スケジュール

４月：砂遊び、水遊び
７・８月：水遊び、しゃぼん玉、絵の具、のり、小麦粉、片栗粉、寒天、泡遊び等
９月：ウレタンブロック、マット、スプリングマット

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

水、タライ、絵の具
巧技台、ウレタンブロック、マット、スプリングマット

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

園庭での泡遊び。数日前から続いていたアイスづくり（制作、砂遊び）をきっかけに、クラスの子どもたちから「泡のアイスが作りたい」「泡遊びがしたい」という声があり活動を始める。「どうしたら泡ができるのか」と問いかけると、「手を洗うときに使うやつ（せっけん）が泡になる」と気付き、そこから必要なタライ、水、手洗いせっけんを用意する。入れて泡立つところから観察、参加し、そこから園庭玩具を用いてアイスづくりやしゃぼん玉づくりなどに発展していた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

園庭で泡遊びをしている際、周囲の子どもたちが楽しむ様子を少し遠巻きに観察する２歳児のHさん。それまでの過ごし方と同じように、周囲を行ったり来たりしながら横目に見て参加していた。いつもなら見る参加をしていたが、その時は距離感が段々と近くなってきた。もしかすると触ってみたいのかもしれないと思い、カップに泡を入れて「触ってみる？」と誘ってみた。すると、そっと近寄り、指先でつつくように触れてみた。「つんってできたね」と言葉を添えると、「うん」と嬉しそうに笑い、そこから手のひらで触れてみる、握ってみる、手のひらに乗せてみる、友達の真似をして吹いてみる、とゆっくりと段階を踏みながら試す姿があった。参加している時間は短いものの、じっくりと確かめながら試したことで、入室後に「あわあわしたね」「ふぅーってしたの」と嬉しそうに保育者に話す姿が見られた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

活動をきっかけに様々な素材に触れてみる機会をつくりたいと思い、クラスとしても様々な感触遊び（絵の具、のり、小麦粉、片栗粉、寒天等）を活動の中に取り入れてきた。Hさんはのりや絵の具などの感触遊びに少し抵抗を感じている様子があり、数日前にクラスで行っていた制作遊びもあまり興味を示していなかった。しかし、泡遊びでは盛り上がる遊びの様子に興味を示し、スモールステップを踏みながら少しずつ参加する姿を見ることができた。小さな一歩だが、確かな一歩を踏むその姿、心の動きに感動した。見る参加（観察）を大切にし、無理に誘わず本人のタイミングで参加できるようにと待っていたことが今回の姿につながったように思う。
“経験を大切にして自信につなげていきたい”、“もしかすると他のことにも興味が芽生えるかもしれない”という大人の願いから、感触遊び以外にもウレタン積み木などの環境を整え、様々なものに触れてみる経験ができるようにした。
その後の姿を追っていくと、共に遊び、楽しさを共有していくことで自我が発揮できるようになり、他の感触遊びや体を使った粗大遊びなどにも参加する様子が増え、やってみようという意欲にもつながったように思う。Hさんのように、他の子どもたちにもそれぞれのタイミングがある。そのタイミングを信じて待つこと、そして遊びのきっかけづくりをしながら子どもの育ちを見ていく必要があると感じた。そんな育ちを保護者とも共有していきたい。